

・ディプロマ・ポリシーに特に強く関連するものは◎、関連するものは○を記入する。

科目名		ディプロマ・ポリシー	【1. 学識と研究能力及び高度専門職業能力】 食料生物学分野に関する高度な専門知識を身につけ、自らの研究の背景や問題点を体系的に理解することにより、その結果を科学的に考察できる能力、及び地域社会の課題の探求とその解決に向けた計画を立案・遂行できる能力を有する。	【2. 豊かな人格と教養及び自発的意欲】 幅広い教養、倫理観、国際感覚、豊かな人格、及びコミュニケーション力を有して科学的な議論を展開でき、持続可能な共生社会の形成に貢献する意欲を有する。	【3. 国際的発信力及び社会貢献】 食料生物学分野の諸問題を分析し、その解決のため自らの研究成果を国内外に発信する能力、持続可能な食品産業の構築及び地域を発展させる産業創成に貢献できる能力を有する。	科目の教育目標	主要授業科目	
研究科共通科目	研究科基盤教育科目	データサイエンス	◎	○		1. データの性質を見極め、データから課題解決に役立つ情報を抽出できる 2. データに基づいて問題を考察し解決するプロセスを体験する 3. 専門の異なる人と協働して問題解決できる	○	
	グローバル教育科目群	国際協力論				◎	・文化を異にする地域に技術移転する際には、その技術を受容する社会の文脈理解が必要であることを理解する。 ・グローバルな状況のなかで技術を社会実装する際に必要な社会科学的知識やスキルを身につける。	○
		グローバル社会文化論				◎	・グローバル社会に対応できる国際的な視点を身につけている。 ・グローバル化社会の課題について理解している。 ・グローバル化する文化について理解している。	○
		グローバルコミュニケーションA				◎		○
		グローバルコミュニケーションB				◎	1. 世界の先端技術・科学に関する専門的内容を学修し、国際的な技術動向や科学の実情について理解を深める。 2. 先端技術・科学に関する専門的内容を英語で理解し、英語による表現力やプレゼンテーション力を深める。	○
		グローバルコミュニケーションC				◎	1. 先端技術・科学に関する専門的内容を学修し、外国の技術動向や産業の実情について理解を深める。 2. 先端技術・科学に関する専門的内容を理解し、英語によるコミュニケーション力を身につける。	○
	イノベーション教育科目群	科学技術論B			◎		1. 自らの専門とは異なる分野の問題の所在を説明できる。 2. 自らの専門とは異なる分野の問題について解決へのアプローチや評価の仕方を説明できる。	○
		科学技術論C			◎		1. 自らの専門とは異なる分野の問題の所在を説明できる。 2. 自らの専門とは異なる分野の問題について解決へのアプローチや評価の仕方を説明できる。	○
		科学技術論D			◎		1. 自らの専門とは異なる分野の問題の所在を説明できる。 2. 自らの専門とは異なる分野の問題について解決へのアプローチや評価の仕方を説明できる。	○
		科学技術論E			◎		1. 技術・科学に関する最新研究の知識を英語で習得する。 2. 異なる分野の問題の所在と、その解決へのアプローチを理解する。	○
		ビジネスモデル特論			◎		1. 技術や資源を活用したビジネスモデルの基礎的知識を習得する。 2. ビジネスプランを作成し、その内容を伝える能力を習得する。	○

科目名		ディプロマ・ポリシー			科目の教育目標	主要授業科目		
		【1. 学識と研究能力及び高度専門職業能力】 食料生物科学分野に関する高度な専門知識を身につけ、自らの研究の背景や問題点を体系的に理解することにより、その結果を科学的に考察できる能力、及び地域社会の課題の探求とその解決に向けた計画を立案・遂行できる能力を有する。	【2. 豊かな人格と教養及び自発的意欲】 幅広い教養、倫理観、国際感覚、豊かな人格、及びコミュニケーション力を有して科学的な議論を展開でき、持続可能な共生社会の形成に貢献する意欲を有する。	【3. 国際的発信力及び社会貢献】 食料生物科学分野の諸問題を分析し、その解決のため自らの研究成果を国内外に発信する能力、持続可能な食品産業の構築及び地域の発展させる産業創成に貢献できる能力を有する。				
専攻共通科目		生物資源学研究	◎	○	○	1. 研究に必要な基礎的研究リテラシーとスキルを習得している。 2. 修士論文のテーマを設定し、実験計画を立案できる。 3. コミュニケーション能力や自発的意欲を有する。 4. 高い倫理観・責任感を有する。 5. 多様な考え方や豊かな創造力を身につけている。		
所属基礎コース専門科目・教育クラスター科目	食料生物科学コース	食安全学特論	◎			1. 食の安全を脅かす有害微生物、食品添加物、食品汚染物質、食品の変質などの様々な視点から食の安全性を理解する。 2. 食環境における安全性確保の方策を理解する。 3. 今後の食の安全対策を構築して実行する能力を身につける。		
		酵素化学特論	◎			1. 基質認識機構や補酵素との共同性、酵素反応速度論など酵素の基本的特徴について説明できる。 2. 遺伝子工学やタンパク質工学などを用いた酵素生産技術や酵素機能改変技術について説明できる。 3. 酵素の様々な利用例を知り、プレゼンテーションを通して相互に理解する。		
		応用微生物学特論	◎			○	1. 微生物機能の探索、開拓、活用方法を理解する。 2. 応用微生物学関連研究を立案し遂行する能力を身につける。	
		生体機能学特論	◎	○	◎		○	1. 口腔および関連組織の構造と機能について理解・説明できる。 2. 消化・吸収・代謝と関係する各臓器の構造と機能について理解・説明できる。
		機能性食品学特論	◎	○	◎		○	1. 市場に出回る機能性食品の科学的エビデンスを理解する。 2. 国内外での機能性食品の需要や、それにかかわる社会問題について考察することで、機能性食品が社会で果たす役目を独自の視点で解釈する。
		栄養化学特論	◎				○	1. 栄養成分の化学構造について説明することができる。 2. 栄養成分の消化・吸収・代謝過程及び機能や健康への関わりについて説明することができる。 3. ビタミン誘導体の開発状況について説明することができる。
		食品評価特論	◎				○	・食品成分のうち、健康性機能を示す成分を理解する。 ・それらの機能性の科学的根拠を理解する。 ・食品の安全性評価の実際を説明できる。
		分子代謝学特論	◎				○	1. 微生物や植物細胞の内的・外的環境応答における、生体分子や代謝化合物の分子機構について理解する。 2. 分子生物学や遺伝子工学の観点から代謝制御メカニズムの解明・応用に至る研究をモデリングする能力を身につける。
		蛋白質機能学特論	◎				○	1. 蛋白質の構造・機能解析について基本原理を理解し、説明することができる。 2. 蛋白質の構造を分析・解析する技術を習得し、食品分野・医療分野などへ応用することができる。
		資源利用学特論	○			◎	○	1. 環境問題を交えた植物バイオマス資源が利用されるまでの背景、バイオマスに含まれる成分とその化学構造・特性、バイオマスの前処理法、利用法といった基本的事項を習得する。 2. 植物バイオマス資源の利用法について、国内外の最新の技術開発例を習得し、自ら独創的な植物バイオマス資源利用法を考案・開発できる能力を身につける。
		食品科学特論	◎				○	1. いくつかの質量分析技術の特徴を説明できる。 2. 各種の食品成分の分析目的に応じて、適切な質量分析手法を選択できる。
		食料生物科学特別実習			○	◎	○	1. 食品に必要な安全性、機能性及び嗜好性に関する知識を修得する。 2. 食品の開発プロセスを理解する。 3. 新しい食品開発を行うための手法を修得する。
		食料生物科学特別講義			○	◎	○	1. 食品の安全性確保のために必要な知識を修得する。 2. 食品の開発における現状と問題点を理解する。 3. 新しい開発技術や分析技術に関する知識を修得する。

科目名		ディプロマ・ポリシー	【1. 学識と研究能力及び高度専門職業能力】 食料生物科学分野に関する高度な専門知識を身につけ、自らの研究の背景や問題点を体系的に理解することにより、その結果を科学的に考察できる能力、及び地域社会の課題の探求とその解決に向けた計画を立てる能力を有する。	【2. 豊かな人格と教養及び自発的意欲】 幅広い教養、倫理観、国際感覚、豊かな人格、及びコミュニケーション力等を有して科学的な議論を展開でき、持続可能な共生社会の形成に貢献する意欲を有する。	【3. 国際的発信力及び社会貢献】 食料生物科学分野の諸問題を分析し、その解決のため自らの研究成果を国内外に発信する能力、持続可能な食品産業の構築及び地域を発展させる産業創成に貢献できる能力を有する。	科目の教育目標	主要授業科目
		他コース科目	○	◎			
・教育クラスター科目	他コース科目		○	◎			
	他専攻科目		◎	○			
		食料生物科学特別演習	◎	○	○	1.食料生物科学分野における最新の研究や応用展開に関する文献を探索できる。 2.食料生物科学分野の最新の学術論文を理解し、その内容について発表・討議できる。 3.食料生物科学分野の研究で用いられる最新の研究手法を理解し、それを活用できる。	○
		食料生物科学特別研究	◎	○	○	1. 修士論文の作成に向けた研究を主体的・能動的に実施できる。 2. 得られた研究結果の解析や解釈が適切にできる 3. 研究成果を修士論文にまとめて発表できる。	○